www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目 1 - 16 〒780-8522 tel. 088 - 822 - 5231 発行者 ● 近森正幸

良質な救急医療を目指して

日本医療機能評価機構「救急医療機能(付加機能)」の認定を受けました

救命救急センター センター長 根岸 正敏



問われる医療の質

高齢化社会を迎え、益々医療の質が問われている現在、近森病院の本館跡地は新築工事の最終段階に入りました。平成23年5月に高知県から救命救急センターに指定された当院の救急外来部門も、3倍ほどの広さに拡充され、念願の屋上へリポートも完成する予定です。

ハード面の充実、高規格病院の 完成も重要なことではあります が、当院救命救急センターにおけ る医療はどうでしょうか。救急患 者さんの受け入れ数など統計的に みれば、これまで通り高知県でも 最多ではありますが、我々の行っ ている医療の質はどうでしょう か。これまでも、心肺停止患者の なたなとなる復帰す。内傷工院患

蘇生率と社会復帰率、外傷入院患者全例のスコアと転帰など出来る限り公表してまいりましたが、これらの指標で

の自己評価にも限界があります。

良質で効率的な医療の提供を目指し、病院機能を第三者の立場から評価するのが日本医療機能評価機構です。近森病院は早い時期からこの評価を受け、1997年に全国で三番目、高知県で最初の認定をいただき、その後も更新を重ねてきました。

が表重ねてきました。

Emergency Depart ent

救急医療機能審查

今回この更新を契機に、救命セン ターでは救急医療に特化した付加機能 の審査を初めて受けました。評価内容 は、診療実績・アウトカムにとどまら ず、①救急部門の地域における役割、 ②体制の確立、③機能の発揮、④質の 改善に向けた取り組み、⑤救急患者へ の適切な対応、⑥災害時の対応、の6 大項目約60の小項目にわたり、2日 間の全体評価とは別枠で、丸一日かけ て書類審査および現場調査が行われま した。厳しい評価項目に対するチェッ クが行われ、地域での役割と機能・体 制の確立の点では改善すべき点もあり ましたが、医療の質の改善、災害への 取り組みなどについては高い評価を頂 きました。

そして、このたび平成25年10月4日付で救急医療機能の認定をいただくこととなりました。現時点でこの認定を受けているのは、当院を含めて全国でわずかに21病院であり、四国内で2病院、高知県では当院のみです。

新たな目標に向けて

近森病院は昭和39年の救急病院告示以来、「救急の近森」として病院一丸となり救急医療に取り組んでまいりました。そして、平成23年には高知県より救命救急センターに指定されました。今回の機能評価で認定をいただいたことは誠にうれしい限りですが、何よりも現在の当院の救急医療の現状が把握できたこと、今後さらに

改善すべき点、目指すべき救急医療機能の充実など、新たな目標が生まれた ことが一番の成果ではなかったでしょ うか。

これからも質の高い医療を

今後も、高知県の皆さまに、安全で 高度な最新の救急医療を提供するため にますます良質な医療を追求していき たいと思います。そして、何よりも県 民の皆さまから信頼され、良質と『評 価』される救命救急センターを目指し ていきたいと思います。

最後に、今回の機能評価の受審にあたり、ご協力をいただきましたすべての職員の皆さんに心より感謝申し上げます。

ねぎし まさとし

ザ・RINSHO 14 臨床栄養部の今昔 4



経腸栄養の進歩

近森病院臨床栄養部 部長 宮澤 靖

ここ数年で、経腸栄養法の理解が急 激に変化して、症例数も増加してきま した。こうした背景には、主治医の先 生方や看護師のみなさんのご理解とご 研鑽をはじめ、栄養剤自体の技術的な 進歩と器具の進歩も大きかったと思い ます。

生体の免疫の大部分は、小腸でコン トロールされていることは、広く知ら れています。絶食が長い期間続くと、 免疫力が低下し、感染性合併症を併発 し、予後を増悪する要因の一つとなる ことも、多数の研究によって立証され てきました。

さらに、経腸栄養法を施行しただけ

では効果がなく、可 能性のある症例には 「入院後早期に開始 する | ことが治療上 大きな効果があるこ とも、多くの研究で わかってきました。

近森病院のデータ を振り返ってみると 2001年には集中治 療室で施行された症 例数は年間で26 症例でしたが、NST が稼働した 2003 年には 88 症例と急 増して、2008年には226症例になり

必要な患者さんすべてに、必要なと きに、適切な栄養サポートが実践され ること、これが栄養サポートのいちば ん大切なポリシーです。

みやざわ やすし

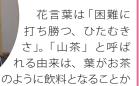


目の歳時記

山茶花

近森病院作業療法科 作業療法士

濵中 瞳



ら、山に生える茶の木の意味だといわれ ています。

サザンカといえば「焚き火の歌」がわ たしたちには馴染み深いですよね。目の 前に情景が広がる大好きな歌です。う~ ん、焚き火が恋しいですね……。もちろ ん焼き芋も……。

はまなか ひとみ



西久万にある妻の実家の墓所の隣 に、「片山敏彦・愛子墓」が「片山徳 治墓」の後ろに建てられている。敏 彦/愛子墓は東京の小平霊園からの 分骨とのことだ。

私が片山敏彦の名を知ったのは、 加藤周一『羊の歌』による。加藤周 一(1919-2008) は書いていた。

「(旧制一高の) 片山教授はベルグ ソンとその考えを説明するのに独仏 の詩人や哲学者の名まえを数かぎり なくひきあいに出した。・・・それら

の名まえは少し甲 高くせきこんだ声 に乗って、実に甘美 に、遠い理想の国の 町の名まえのよう に、私の耳に響いて きた。・・・片山教 授は若いときに西洋 に遊学し・・・、ロ マン・ロランを訪ね たことがあり、ロ

ランを崇拝すること神の如くであっ た。・・・ボナールの色彩を愛し、ド イツ浪漫派の旋律を好み、ロランそ のひとと同じように、自国の軍国主 義をも含めてあらゆる軍国主義を憎 んでいた。

片山敏彦は、明治31年(1898) 高知市に開業医、片山徳治の長男と して生まれた。旧制六高在学中に西 欧文学を志した。医科進学を望んだ 父徳治は寺田寅彦に相談、寅彦の助 言で進路変更でき、大正 10年(1921)

東京帝大独文科に入学、大正 13年に 卒業、法政大学教官を経て昭和 13年 (40歳) 旧制一高の教授となった。

昭和4年(1929)、船旅で西欧に 行き、パリの詩人たちと親交し、ス イスにロマン・ロランを訪ねた。ザ ルツブルグにツヴァイク(当時きわ めて高名だった作家・評論家)を訪ね、 アルザスでシュヴァイツアーに会っ た。

この時代、日本は第一次大戦に参 戦したとはいえ、漁夫の利を得ただ

けで国民は未だ悲惨 な戦争を知らなかっ たが、このときすで に片山はロマン・ロ ランの《戦いを超え て》の思想に共鳴し ていた。その後日本 田中 洋輔 は暗い時代に突入し

高知出身の翻訳家 片山敏彦

気儘エッセー

近森病院外科部長

て行く。

片山はロランとアラン(仏文学) を翻訳し、ヘルマン・ヘッセ、リルケ、 カロッサ、ゲーテ、ハイネ(いずれ もドイツ人)の訳詩集を出版した。 昭和36年(1961)肺癌にて死亡した。

この時代の高知県の鉄道事情は、 多度津~須崎間が開通し、土讃線と 命名されたのが昭和10年(1835)で、 これ以前の高知県人の東京進学は、 鉄道敷設地域より相当不利であった。 そんな時代に片山は、西欧文学を志 し東京に進学し、憧れた西欧の文人 に会うためにヨーロッパに遊学した のである。

● 医療今昔物語 ● 神経内科 3

~脳の可視化がもたらした功罪~

CTの登場

近森病院神経内科 主任部長 山﨑 正博



物事のみかたや考え方が全く逆転す るような変化をとげることを、イタリ アの天文学者の名前をとって"コペル

私の被除

天体鑑賞

診療支援部企画課 中澤 章子





道途中の龍王の滝 ▼梶ヶ森への途中



秋になるとすこし文化的な趣味を持ち たい気持ちになりますが、そんな欲求を 満たしてくれるのが天体鑑賞です。

高知県には天文台が3カ所あり、そ のうちの一つの梶ヶ森天文台は併設の 山荘が近森会健康保険組合の保養所に なっています。実際に自分で反射望遠鏡 を覗くことができるので、星そのものに 興味がある方にもおすすめです。星空ナ ビゲーターさんが解説をしてくださるの で初心者でも安心して参加できました。 (今年いっぱいは望遠鏡の故障で観望会 はお休みだそうですが…)

地面に寝転がって星座を見つけたり、 それにまつわる話を読んだりするのも好 きです。秋の星座では、ペガスス座は 走るのが早すぎて後ろ半分が霧のように なっていたり、くじら座は怪物で手があっ たり、アンドロメダ座とカシオペヤ座と ケフェウス座は家族だったり…。星の数 ほどお話があるのでなかなか飽きませ ん。夜の山は想像以上に寒いので、お 出かけの際には暖かくして行ってくださ いね。

なかざわしょうこ

ニクス的転回"といいますが、CT断 層撮影検査の登場は神経系医師にとっ てはそれにふさわしい仰天の検査でし た。昭和52年頃です。脳外科、神経 内科、精神科などの診療科は他の科と 違い、『見えないものを診ている』、と いう診療上の特徴があったのですが、 CT検査にて頭の中が見えるように なったわけです。毎日毎日が新知見の 連続で、当時は『CT画像で --- を呈し た一例』という地方会レベルの学会発 表がすぐできました。

脳一のちには機器の改良で、体全体 どこでもが撮影できるようになったの ですが、この CT 撮影の原理を発表・ 開発した二人にはノーベル生理・医学 賞の栄誉が授けられました。日本での 普及は早かったですね。市中の主要病 院にはあっという間に設置され、一時 期、日本の中堅都市とイギリス全土の CT台数が同じだ、という外人のやっ かみもありましたね。

CT 検査による早期発見・早期加療 が日本の平均寿命の延長に貢献してい る、というみかたがある一方、医療被 曝が多い(福島の原発事故の比ではな いくらい)と言われており、複雑な診 察をしなくても病変部位・病態が容易 に分かることから、神経系の医者の診 断能力が落ちたともいわれています。 機器の進歩は普遍化とプロ化のせめぎ 合いを起こしますね。

やまさき まさひろ

ワインの向こうに



近森正幸

今年も遅い夏休みをとり、妻と一緒 にワイナリー巡りをした。この十数年 間でフランスとイタリアのほとんどの ぶどう畑を見てまわったことになる。 最近は体力的にきつく、ワイナリー巡 りも最後になるのではと思った。

いつも感心することだが、ワインが あまり穫れない中央山塊のオーヴェル ニュでも、地元のレストランではワイ ンリストのトップにコート・ド・オ ーヴェルニュが誇らしそうに載ってい る。それをまっ先に注文すると、スタ ッフみんなが喜んでくれた。

高原を下り、ローヌ川に出て、ボジ ョレーからコート・ドール(黄金の丘) に至るブルゴーニュの名だたる名醸地 のワイン畑をひさしぶりにゆっくりと 見てまわった。ちょうど摘みとりの真 っ最中で収穫直前のぶどうの実、畑の 位置や土の状態、温度や湿度、樹齢な

サヴォワの愛情いっぱいのブドウ畑



ど、ワインに影響するいろいろな要素 をいちどに見ることができた。

ディジョン手前で東へ折れ、フラン シュコンテ地方のジュラのワイナリー を訪ねた。ここでは前から知りたかっ たヴァン・ジョーヌ (黄色いワイン) の独特の熟成方法を見ることができ た。サヴァニャン種のぶどうだけを使 ってワインをつくり、樽で6年3カ 月寝かせる。その間に3分の1が無 くなるが風の通る熟成庫できびしい気 候にさらされる方が、酵素が活性化し て、特有の風味を味わうことができる。

最後にサヴォワではワインづくりが 大好きなご夫婦にワイナリーとぶどう 畑を案内していただき、庭で穫れた甘 いイチジクと地元のチーズでワインテ イスティングをして、楽しい時間を過 ごすことができた。

行く先々でワインづくりに愛情と情 熱を注いでいる手のがっしりとした 人々と巡り会い、これまで以上にワイ ンを大切に味わえるようになった。

理事長・ちかもり まさゆき

看護部 キラリと**光る看護** part2

チームで看ていく 消化器看護コース

近森病院60病棟 近森病院50病棟 看護師長 近森病院北4病棟シニア看護師長 近森病院 6 階病棟シニア看護師長 斉藤 尚子

看護師長 布 美奈子 影山 美佳 西岡 成巳



左から斉藤シニア師長、西岡シニア師長 布師長、影山師長

消化器は対象臓器も多く、さらに良 性・悪性の疾患がありそれぞれに検 査・治療法が異なります。また幅広い 年齢の患者発生があるということや他 の疾患で治療している患者も消化器の 検査を受ける機会も多いという特徴が あり、看護師としての知識とその役割 は重要となります。

このコースは、切って治す外科的治 療コースと切らずに治す内科的治療 コースの2コースがあり、消化器に興 味のある方に選択していただくように なっています。(*希望があれば両者 の組み合わせも可能です。)

消化器外科コースでは、外科医師に よる回診に参加することや手術室見学 などができ、消化器内科コースでは内 視鏡的に行われる検査・治療や放射線 科で行う治療などが見学できます。そ して病棟では急性期看護、継続的治療 の必要な患者の看護、在宅への調整な どの見学や経験ができます。それぞれ の部署では、専門的知識や技術を身に 着けたスタッフからの説明を受けるこ ともできます。

また消化器の疾患は栄養状態の管理 も重要となり病棟担当の管理栄養士と の連携や認定看護師の横断的活動な ど、インターンシップに参加すること でチーム医療を感じて頂けると思いま す。興味のある方、ぜひ近森のチーム 医療を一緒に体験してみませんか。

> ぬの みなこ かげやま みか にしおか なるみ さいとう なおこ

お弁当拝見 19



自作のまげわっぱで



あまり料理は好きではありません が、節約と健康のためできるだけお 弁当を作るようにしています。ただ 朝から料理するほどの気概はないの で、週末にまとめて作って冷凍して おいたものを朝詰めるだけのほとん ど手抜きです。

お弁当箱はおととし馬路村の曲げ わっぱ職人のところに弟子入りして いた時に作ったものです。白木のも のは調湿効果、うるし塗は抗菌効果 があって、時間がたってもごはんが 固くなりにくくおいしいうえに、し かも見た目もかわいいと、良いこと ずくめなんですよ。

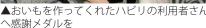
いつか時間に余裕ができたら自分 の家で曲げわっぱ作りをしたいと 思っています。

ひろまつ みどり













▶講演中の水島広子先生



怖れを手放す ~アティテューディナル・ ヒーリング(AH)入門~

総合心療センター 副センター長 宮崎 洋一

平成25年9月13日(金)から14日(土)にかけて水島広子先生に高知に来ていただきました。

水島先生は精神科各疾患に有効性が 実証されている、対人関係療法の日本 における第一人者で、ご自身のクリ ニックで難治性の患者さんの診療に取 り組まれています。一方で「AH」の 啓蒙活動を休日返上で行なわれています。

まず、9月13日に「怖れを手放す ~アティテューディナル・ヒーリング 入門~」について地域医療講演会とし てご講演いただきました。

「AH」はその時そのときの自分の感情や考えを責めることなく受け入れ、その上で苦しさにつながるものはそのつど手放し、より平和な気持ちになれる感情や考えを、選び続けていくための考え方や行動指針で、誰にでも役に立つもので当精神科グループでは、ス

【●お知らせ 医療従事者対象 ●

●第 121 回地域医療講演会 実習編 「第 5 回心臓血管ウェットラボ/

心臓の解剖と心臓治療」

日時:11月10日(日)9:00~15:00 会場:管理棟3階会議室

●第 122 回地域医療講演会 「高所と健康・病気

~低酸素適応と生活変化~」

日時:11月15日(金)19:00~21:00

会場:管理棟 3 階会議室 2 講師:大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

総合地球環境学研究所研究部 准教授 奥宮清人先生

●第 123 回地域医療講演会 「発達障害の理解と心の援助 ー中学生・青年の箱庭療法の

ケースを通して考える一」

日時:11月23日(土)13:30~14:50

会場:管理棟 3 階会議室 講師:高知心理療法研究所所長 日本箱庭療法学会理事

臨床心理士 高野祥子先生

タッフの研鑽と患者さんの治療に3年 前より活用させてもらっています。

当日は水島先生のネームバリュー もあり 200 名を越える参加者があり、 大盛況でした。会場の反応を見ます と、なにかしらの手ごたえを感じてく ださっていたようです。



翌日は近森病院の管理者向けのワークショップ(1日)を濃厚に行なっていただき、参加者からは「仕事がしやすくなった」「スタッフとの関係性が楽になった」など大好評でした。

みやざき よういち

院外エッセイ



人生すいすい お茶漬けさらさら

野中朋之

●のなか ともゆき 高知広告センター社長、手結山開発観光(土佐カントリークラブ)社長等歴任し、2011年退職。社会活動では高知青年会議所理事長、高知ロータリークラブ会長、高知大学同窓会連合会会長など歴任後、(社)日本尊厳死協会高知理事

私は77歳ながら健康で、血液検査データも血圧も安全圏に収まり、身長に縮みもありません。たいへん有難く感謝の日々です。そこで、これまで健康で来られた私流健康法を振り返ってみます。

体力とバランス

私は農家の生まれで、中学生になる と一人前の労働力でした。ここで身 体を鍛えたことが今日を支える土台 になっていると思います。一輪車さ えない時代で作業はすべて人力。鍬 を持つ利き手は右先、疲れると左先 に持ち替える。肥料や収穫物を運ぶ のは天秤棒ですが、百歩も行くと肩 が痛くなりますから右肩から左肩に 移す。こうして身体のバランスをとっ たのです。これが脊椎側湾症予防に なったのではないかと思っています。 前屈みの作業が多く、土間の梁に平行 に棒を吊るし、一日に何度もぶら下 がり背すじを伸ばしたものです。今 もこの習慣の延長線上にあり、ゴル フ中にはときどき左で素振りし、バ ランスをとっています。

食事と酒

食事は伝統的日本食が主、新鮮な

青魚にこの地で採れた野菜や果物、 そしてよく噛むこと。サプリメント なんぞ無縁の世界。

若いときの大酒飲みは、厄入りを境にほどほどの酒に切り替え、今夜も晩酌は燗酒一合のみ。タバコは若いとき気管支炎で、以来中止。

ストレス解消の私流メンタルヘルス

人生を「自分流でいく」よう心がけた。失敗をくよくよ思い悩んでも仕方がない。「忘れることは救いである、心痛するなかれ、この世で起こったことは必ずこの世で収まる、人生すいすいお茶漬けさらさら」と呪文を唱え、酒飲んで寝る。「作のことはいつしか忘却の彼方に。

粋な爺さんで終わり

二年前に退職したが老け込まないように、以前から関わってきた社会活動は恩返しのつもりで精力的に続けており、けっこう忙しい毎日です。ショウタレコキの年寄りにはなりたくない、ダンディーといわれたい。

私の平均余命は統計上約9年、できればピンピンコロリと願う。そろそろ主治医を見つけておかねば。

第 118 回地域医療講演会 ■



留学までの経緯や 留学先での生活

近森病院心臓血管外科 部長 入江 博之

第118回目となる今回の地域医療 講演会には、「ドイツで心臓外科-家 族ととともに7年間」との題名で、岡 山大学大学院医歯薬学総合研究科心臓 血管外科の増田善逸先生にご講演して いただきました。

増田先生はドイツのライプツィヒ大 学心臓センターで、最初の1年はリ

サーチフェローとして、以後6年は臨 床医として働かれており、今回の講演 ではご自身の体験談を元に、留学まで の経緯や留学先での生活を中心に話し ていただきました。

アメリカの学会、カナダの学会、そ してライプツィヒ大学へ行き、直接 Mohr 教授へなんども留学のお願いを



する行動力と熱意は、増田先生の講演 からも十分に伝わってきました。

将来、留学を考えている人たちに とって、留学をより現実的な目標とし て考える、いい機会になったのではと 思います。増田先生、ありがとうござ いました。

いりえ ひろゆき

第 119 回地域医療講演会 ■

地域医療とは何か? 高知、アジア、ヒマラヤにおける フィールド老年医学の現場から

近森病院副院長 内科部長 浜重 直久



講演中の松林公蔵先生

がえたのではないかと思います。

京都大学東南アジア研究所の教授と して、「地域在住高齢者の健康と生態 系や文化との関連一地域間比較」など を研究されている松林公蔵先生におい でいただき、10月3日(木)、「地域 医療とは何か?」と題してご講演をい ただきました。

松林先生は、1986年から14年間、 高知医科大学(現・高知大学医学部) に在籍され、高知県内の神経内科診療 を指導していただくと同時に、香北町 研究や、ヒマラヤ、フンザなどの遠征 を通してフィールド医学の意義やロマ ンなどを若い人たちに伝えてこられま した。

2000年に京都大学に移られてから は、年間100日前後をニューギニア やミャンマーなどアジア各地を飛びま わって活躍され、病院のなかでは得ら れないユニークな知見をたくさん発信 しておられます。

日常の診療とはひと味ちがった、文 化人類学者や哲学者のような視点で、 医療や社会を考える貴重なお話をうか はましげ なおひさ ワイン講座 ● 16

日本のワイン その3

樽にこだわる

自然派の生産者のように醸造過程で酸 や糖を補わず、ぶどう本来が持つ力を尊 重し、フレンチオーク樽で短期間の熟成。 また、こだわりの生産者が行う、瓶熟成 を重ねて、飲みごろになってからリリース する。勝沼醸造の最高峰の白ワインには、 このような流儀が守り伝えられています。

フランスでは例外的な年を除いては、 補糖か、補酸のどちらかが認められてい ます。なぜなら、葡萄の収穫時期は雨が 降りやすく、品質を大きく左右します。収 穫を早めれば、酸は残るが糖度が足りま せん。収穫を遅らせると十分な糖度を得 られますが、酸が不足がちになってしまう ためです。

また、ワインを熟成させる場合、そのほ とんどは、ステンレスやコンクリート製の アルガ・ブランカ・ピッパ 2008 / 勝沼醸造 控えめな樽の風味、程よく濃縮された果実 味と酸味が見事に調和しています。少し高め の温度で楽しむ事で、その個性が発揮されま す。年産 7543 本。

タンクを使用しますが、例 外的に木製の樽を使用する 場合があります。

樽は魔法の容器かのよう で、ワインが樽と接触する ことにより、木のタンニン (渋み)や甘み、香りが移 り、風味に厚みや複雑さが 形成されます。バニラや焦 がしたようなスモーキーな香 りが感じられます。まるで、 さなぎが蝶になるかのよう な変化を遂げます。



(有限会社鬼田酒店代表)

今後の予定/その④熟成にこだわる/ その⑤ 10 年先を見てのワイン造り



出張報告

日本精神科看護学術集会専門」に参加

近森での取り組みを発表

近森病院総合心療センター 5 階病棟介護福祉十 堀内 航介



▲前列左から安田親司看護師、筆者、後列左から、林加奈子看護師、 西森瑞愛管理栄養士、松永智香看護部長、筒井恵美看護師

この度、群馬県で行われた日本精神 科看護学術集会専門Iに参加し、精神 科コンチネンスチームの取組みについ て発表させていただきました。

学会で私たちの活動を報告するにあたり、今まで実践してきたことを可視化する良い機会になりました。その際、チーム内で方向性や表現の仕方、今後の課題などについて話し合いを重ねたことで質の向上に繋がったのではないかと思います。

一つの大きな目標に向かい、さまざまな職種が関わっていく過程はまさにチーム医療を表しており、近森らしい、良い発表になったのではないかと思います。

ほりうち こうすけ

■ ■ 企画セミナーのプログラム ■ ■ ■

チームで行う下剤に頼らない排便への取り組み

時間	内 容		発表者	
13:15 ~ 14:05	総論	下剤に頼らない排便ケアの基本	西村かおる	
		取り組みに至るまでの経過	松永	智香
		排便状態改善への 取り組みによる変化	林力	11奈子
14:05 ~ 14:50	各論 (チームで行 う排便ケア)	アセスメントツールの改新 「スタッフ」と「私」の意識の変化	筒井	恵美
		看護師・介護士の取り組み	安田	親司
		管理栄養士の取り組み	西森	瑞愛
		薬剤師の取り組み	西田	佳織
		作業療法士の取り組み	田渕	祐子
		ケース紹介 (2 症例)	堀内	航介
14:50 ~ 15:20	全体討議	ディスカッション・グループワーク (オブザーバー: 西村かおる・大野直美)	全	員

糖尿病看護認定看護師取得

糖尿病の患者さんと ともに歩む

近森病院外来センター 内科外来主任看護師 岩井 千代美

糖尿病に想いをはせて、糖尿病療養 指導士取得から4年が経過し、このた び「糖尿病看護認定看護師」の資格を 取得しました。

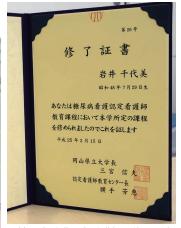
糖尿病患者の療養指導は良好な代謝コントロールの維持、合併症の発症を予防し進展を抑制、健常人と変わらぬ社会活動を可能にするために、生涯にわたる患者と医療側の密接な連携が必要となります。糖尿病患者へは外来受診日に介入し、検査結果や日常生活を振り返り、療養生活のなかでなにかできることがないか、患者と一緒に探しながら考えています。

血糖値が改善したり目標が達成され た際には、「頑張りましたね」「なにが



良かったでしょう」と、一緒に喜び、そして称賛し、またときには「どうでしたか」「なにか変わったことがありましたか」とセルフケアを振り返り、自身で気づくことができるような会話を心がけています。

また患者のQOLを維持しながらその人らしい人生を送ることができるように、患者がなにを大切に思い、なにを必要としているのかを知り、そしてなにができるのかを導き支援していく



▲糖尿病看護認定看護師の修了証書 ことが、看護の力だと思いま す。医療者中心ではなく患者

中心のチーム医療ができるよう、患者 と共に歩み学びながら成長していきた いと思います。

糖尿病関連で困ったり疑問に思うことがあればぜひご相談ください。できる限り駆けつけたいと思います。また院外では「糖尿病看護土佐の会」で活動しています。糖尿病に興味がある方や、一緒に活動をやってみたい方は気軽に声をかけてください。

いわい ちよみ

高知整形エコーセミナー

明日から始める 外来エコーとエコーガイド下 インターベンション

近森病院整形外科 統括部長 衣笠 清人



左から西井科長、上田部長、平田先生、筆者

やかに導入する必要性を感じました。

きぬがさ きよと

10月12日(土)に管理棟3階会議室にて肩関節周辺に愁訴を持つ患者さんに携わる医療従事者を対象とした約2時間のレクチャーとワークショップを行ないました。

講師はこの分野の経験豊富な平田正純先生を大阪の済生会吹田病院よりお呼びし、GEと帝人の協力を得て盛会の内に終えることができました。

院外からの先生方や近森会グループ

の熱心な PT を含めて 40 名の参加者 は、ボランティアの患者さんの肩に



▲肩にエコーを実際に当て実技指導を行う平田正純先生(中央)

2013 年 9 月の診療数 システム管理室

近森会グループ外来患者数16,829 人新入院患者数811 人退院患者数775 人近森病院

平均在院日数 14.80 日 地域医療支援病院紹介率 87.38 % 救急車搬入件数 430 件 うち入院件数 227 件 手術件数 425 件 うち手術室実施 285 件 →うち全身麻酔件数 154 件

平成25年9月県外出張件数件数81件延べ人数141人

図書室便り (2013年9月受入分)

- CARDIAC SURGERY Operative Technique 2nd EDITION / Donald B.Doty (他著)
- ・Wilcox's Surgical Anatomy of the Heart Fourth Edition / Robert H.Anderson(他 著)
- ・口腔癌取扱い規約 2010 年 1 月 第 1 版 /日本口腔腫瘍学会(編)
- ・頭頸部癌取扱い規約 2012 年 6 月 第 5 版/日本頭頸部癌学会(編)
- ・質が問われる時代の看護サービスマネ ジメント/江藤かをる

《別冊・増刊号》

- ・別冊 NHK きょうの健康 乳がん 納得のいく治療を選ぶために/岩田広治 (総監修)
- ・臨床栄養 別冊JCN セレクト 8 在宅 静脈経腸栄養 今日の進歩/櫻井洋一(編) ・リハビリナース 2013 年秋季増刊 ま るっと 1 冊リハビリ病棟の退院支援 個 別性のある患者・家族支援ができる!/ 伊東由美子(編)

リレーエッセイ

わたしの癒し 「近づきすぎず、はなれすぎず」

近森病院北館 3 階病棟 看護師 山本 道代

私の家には猫が一匹います。アメリカンショートへアの一歳、雄猫のポンタです。最近のお気に入りはキッチンのコンロの上でゆっくりお昼寝。

ゴロンとお腹を出して眠ります。 にゃんこのお腹はとてもふかふ か。顔をうずめてすりすりする と、何とも言えない温かさとふ かふかの柔らかい毛に癒されま す。

猫はとってもツンデレ。冷たくされれば、されるほど…。無視されるとよけいにこっちを振り向かせたくなる。そんなふうに気持ちが募るのは人の常。にゃん

に気持ちが募るのは人の常。にゃん こさんはその辺の人間心理をよく観 察、分析されています。

呼んでも来ないのにご飯の袋の音には敏感に反応して擦り寄ってくる。 抱っこすると嫌がってすぐに逃げて しまうのに、疲れてソファーで寝て



▼アメリカンショートへアの「ポンタ」



いるといつの間にか頭元で一緒に寝 てくれている。ゴロゴロ優しく喉を 鳴らし、ふかふかの毛と優しさを分 けてくれる。近づきすぎず、でもは なれすぎず。この適度に保たれた猫 との距離感がとても心地いいです。

やまもと みちよ

▼「ファイト―発」さあうん!さあうん!

▼「みんなおいでよ」お菓子もおもちゃも両手じゃ足りない!



職員運動会



▲「子ども責任リレー」総合優 勝はリハ科チーム(赤)でした。 おめでとう!

2013年9月29日、21回 目の職員運動会が高知県立 大学体育館で行なわれまし た。近森会職員とその家族 の健康促進と交流を深める 大会で、子供たちも参加し て毎年盛り上がります。

ハッスル研修医

標 目



初期研修医 辻 やよい

私は大阪の柏原市出身です。地元 では有名な (?!) 柏原ワインを生産し、 高井田横穴古墳群というマイナーな 観光名所をもつ場所で、隣は奈良県 という自然あふれる地元です。

医師を目指して高知大学医学部に 入学して6年、この4月から近森病 院で研修医として医師の第一歩を踏 み出させていただいています。たく さんの先生方、コメディカルの方に 多くのことを教えてもらいながら、 学んでいる毎日です。

研修をしながらもっとも強く感じ るのは、患者さんとお話しさせてい ただく時間がいちばんの学びの場で あるということです。症状のことを よくわかっているのは患者さん自身 であって、そこから重要な情報を教 えてもらって診断に近づきます。

まだまだ不慣れで、時間がかかり、 順序良く気持ちよく話していただく ことができず、なんども同じことを 聞いてしまっているかもしれません が、これからもお話していただいて いる時間を大切にして、仕事に励み たいと思います。

つじ やよい

沖縄 フィジー

今年2013年度の職員旅行はヨーロッ パから日本国内を含め 22 コース 33 組 が出発します。今回はフィジーと沖縄 旅行の写真です。

▼沖縄の紅型の民族衣装を着てハイ!ポーズ







▲フィジーで自然とともに時の流れを感じて



▲フィジーの海は近くでサメが見られる



▲澄んだ海、青い空、フィジーは最高!

リレー・フォー・ライフジャパン 2013 高知

24 時間リレーで歩く

がん征圧とそれに向かって闘う方々の勇気 を称えると同時に、がんで悩むことのない 社会の実現を願って!

近森病院画像診断部 診療放射線技師長 髙橋 宏幸

日本対がん協会が主催し、近森病院 も協賛しているリレー・フォー・ラ イフ・ジャパン 2013 高知が 2013 年 10 月 12 日 (土) から 13 日 (日) に かけて城西公園で開催されました。

このリレー・フォー・ライフは、国内で40カ所、全世界20カ国で開催されているチャリティ・イベントです。高知でおこなわれたこの2日間のイベントには、ライブ演奏やダンス公演、がん質問コーナーなどの催しがありました。

メインであるリレーウォークは、城 西公園のグラウンドを24時間リレー で歩くということをおこなっていま す。これには、がん征圧とそれに向か い闘う方々の勇気を称え、がんで悩む ことのない社会の実現を願う思いが込 められています。

写真は、最終日のリレーウォーク交 代時間に撮ったものです。陽が昇り、 元気はつらつの臨床検査部と疲れを隠 せない画像診断部の面々です。

たかはし ひろゆき



▲左から画像診断部の中村伸治さんと筆者、 女性は前列左から臨床検査部の川井郁子さん と小島彩子さん、後列左から筒井昌代さんと 近澤香奈さん

▼がんで亡くなった人たちを偲び、名前を記した紙袋の中にろうそくを灯した「ルミナリエ」



乞!熱烈応援

経験を基礎として

近森病院整形外科 科長 三宮 将典



このたび、整形外科科長を拝命いたしました。2013 年 4月から当院に勤務し、早いもので半年が経ちました。

当院に勤務する前は主として慢性疾患を経験しておりましたが、これまでの経験を基礎として、患者さんの診察、治療に還元していきたいと思っています。

また、今後は急性期疾患に対する知識を深め、自分の精進とともに後輩諸先生の模範となれるよう自覚しつつ、みんなで協力して日々の診療に取り組んでいきたいと思います。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

さんのみや まさのり

愛される病院をめざして

近森オルソリハビリテーション病院 作業療法科科長 仲川 健



近森会に就職して14年の歳月が経ち、20人程度であった作業療法士も今では4倍以上になりました。現在の近森リハビリテーション病院の7階会議室が、作業療法室だったことを懐かしく思います。私自身近森リハビリテーション病院、いごつぱち、オルソとさまざまな経験をし、振り返れば多くの先輩方やなかまに支えられ、今の自分があると日々感じています。

今後、自身が受け継いだリハ魂に若いスタッフの意見を取り入れたリハ魂をプラスし、質の高いサービス提供につなげていきたいと思います。また、スタッフが働きやすいと思える職場環境をつくり、スタッフと患者さん共に愛されるリハビリ病院を目指していきたいと思っています。

なかがわ けん

知的で計画的に

近森オルソリハビリテーション病院 主任作業療法士 村井 良太



これまで感性と勢いでこなしてきましたが、今回の昇格を機に知的で計画的な主任となれるよう、行動を変革していきます。またスタッフみんなが仕事を楽しく続けられるような職場づくりを積極的に行っていけるよう、微力ではありますが力を尽くしていくつもりです。

近年 OT 科の人数も増えており、より透明感のある職種として後輩が活躍できるように、他の職種の方々への認識改革をはじめ、幅広く楽しく働ける OT の在り方を示していけるように最大限努力してまいるつもりです。

皆さまには今後共これまで以上のご支援とご助言を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

むらい りょうた

▶県内8人目、近森会3人目 の認定輸血検査技師認定証

認定輸血検査技師に合格

創設から 18年の認定輸血検査技師資格

認定輸血検査技師資格は、1997年に創設され、高知県ではこの18年間に7人が資格を取っており、このたび合格した芽里さんは8人目、近森会では岡田士郎さん山本綾さんに次ぐ3人目の資格保持者となる。検査業務経験5年以上で輸血検査歴は3年以上、5年間で資格審査基準に必要な50単位を取るなど受験資格自体が厳しく、しかも合格率は平均20%と、検査技師認定資格のなかではかなり取りにくい資格といえる。

難題に挑戦する原動力

徳島大学医学部保健学科卒の芽里さんにとったら学生時代の受験勉強の続き、というには時間が経ち過ぎたかも知れない。が、内視鏡検査技師の資格も同時に取り、救急対応も必要な業務の合間に受験勉強ができるのは、やっぱり頑張り屋さんならばこそだろう。

ところが、「こんなに頑張っている みたいなアピールなし。バタバタせず 涼しい顔で確実に結果を出すタイプ」 だと米澤眞理子主任はホメる。「キチッ としていて丁寧。ミスを食い止める防 波堤のような役割を、若いのに担って くれているのも芽里ちゃん!」なのだ そうだ。

誉められてちょっと恥ずかしそうな 芽里さんを周りのスタッフが嬉しそう に眺めている。そんな輸血検査室の雰 囲気の柔らかさもまた、難しい資格試 験にも挑戦する意欲を持たせる原動力 となっているようだ。

輸血検査室の主な業務

輸血検査室はスタッフ9名。ABOやRh式血液型の検査や、高知県赤十字血液センターから供給される輸血用の血液製剤と患者さんの血液の適合を調べ、最もふさわしい血液製剤を見つけて輸血治療の準備を行なうのが主な業務である。

芽里さんの学生時代、輸血の実習は 「有名なコワい先生でビクビクしてい ましたが、いまはあのコワさのお蔭で 前もって準備するクセがついたかも知れない」と思っているそうだし、なにより、日々の忙しさを、「当たる症例を次に活かせるよう、そのつど確認を怠りなく」と言い聞かせているそうだから、その伸びしろの大きさが楽しみだ。

願いをこめて木の芽のようにスクスクと

家では、近所に住む双子の甥っ子 姪っ子と年子の姪っ子に、ほとんど毎



▲患者さんと血液センターの血液とが適合するか交差適合試験を行なう芽里さん

日のように会って癒されている。可愛くてたまらない子どもたちと遊んだり、お風呂に入ったりするのが何よりの息抜きになっているのだろう。

若い女性スタッフの多い臨床検査部ではお互いを姓で呼び合い、馴れ合いを慎んでいるようにも見えるが、例外は「芽里ちゃん」。本人のキャラの可愛らしさと名前の音の響きの可愛さでこう呼ばれている。

この名付け親は芽里ちゃんの伯母の、ご存知の人も多いだろう大原寿美さんである。「木の芽のようにスクスクと広いフィールドで育って欲しい」と願いをこめて命名してくれたそうだ。大原さんは、高知こどもの図書館の設立から初代館長として運営を軌道に乗せるなど、高知の文化環境には恩人のような人である。

輸血療法 100 年の記念の年に

2013年は輸血療法にとっては、アルゼンチンの Agote 博士が静脈を介した安全な輸血療法を実施できることを実証した1914年から数えてちょうど100年の記念の年に当たる。この記念の年に新たな資格が取得できたわけだ



▲毎日のように、こうして癒されています

が、「的確に、自信をもって判断できるように早くなりたいです」と、まっすぐな目標を話してくれた。チームワークの問われる職場で若いスタッフの頑張りが期待される。

趣味の話があまり出なかったが、周りから焼酎が大好きよね~と声がかかったとき、「いえ、たしなむ程度です」と、慌てて訂正した顔も、なかなかチャーミングで愛らしかった。

ニューフェイス ①所属②出身地 ③最終出身校 ④家族や趣味のこと、自己アピールなど



ほそだ こうじ ①放射線科 医師②高知市③慶應義塾大 学④都会で生活するのに飽 きて高知に帰ってきました。 画像など、気軽に相談して頂 けましたら幸いです。趣味は

細田 幸司 テニス、旅行、写真等です。

編集室通信

先日、幡多地区の学校にご挨拶に行く機会 がありました。ここ何十年も学校という所に は縁がなかったのですが、懐かしさや輝きを 感じ「あ~社会人にはない、新鮮な気持ちに なれるな」と不思議な思いに浸っていました。 自分が学生の頃なんて将来の仕事を考える事 などなかったのですが、今の子達は早い段階 で将来を見据えてるので感心します。

診療数、出張数、図書室は8面へ